【静岡県立静岡高等学校】

令和５年度　第１回　学校運営協議会（報告）

日時：令和５年６月 24 日（土）
午前９時 30 分～12 時
会場：静岡高等学校　会議室

１　開　会

・校長挨拶

２　授業参観（全日制）

３　協議等

（１）自己紹介、会長・副会長の選出

会長の推薦について　　Ａ委員よりＢ委員を推薦
副会長の推薦について　Ｃ委員よりＡ委員を推薦
承認

（２）令和５年度学校経営計画の説明及び承認（織田校長）

【全日制】

〇スクールミッションの説明

・本校の特徴として「フロントランナー」「探究心をもって主体的に」「グローバルリーダーの育成」があげられる。

〇スクールポリシー、本年度の取り組み目標（重点）の説明

・指導していく中で、効率的にやるところとじっくり考えるところのメリハリを意識。
・土曜日にオープンスクールとして３時間実施し、学校見学を受け入れている。
・土曜授業を実施することで、部活動の時間を確保したうえで、平日 19 時完全下校が実現できている。

【定時制】

〇スクールミッションの説明

・一人一人に応じたきめ細かく温かみのある教育を意識している。

〇スクールポリシー、重点目標の説明

・中学校の時に不登校だった生徒も多いので他とかかわって一緒に何かをやるという経験をしてほしい。
・在校中に成人を迎える生徒を社会の一員として責任ある大人として送り出したい。
・保護者と連携して生徒を育てていく。

最終的には第３回の評価をいただくことになる。

令和５年度学校経営計画について、採決を実施し、承認された

（３）学校概況・事業等（副校長）

〇学校生活、行事等

・コロナについては、５類以降、大きな影響はない。マスクは各自の判断としているが、暑くなってきているので外している生徒も増えてきた。
・修学旅行については本年度、台湾コースは中止とした。
・学校祭は、一般公開については、1,300 人程度の来校者があった。台風の翌日で、開始時間を１時間遅らせたが、実施することができた。仮装についても 900 名くらいの保護者が来校した。
・部活動は、東海大会に山岳と弓道、全国大会にソフトテニスとヨットが出場する。
・女子の制服にスラックスを本年度４月から導入している。

〇総合的な探究の時間について

・現３年生から、問いを設定して調査・研究を実施した結果を論文にまとめている。
・令和４年度からは大学院生や社会人チューターと連携し、研究の進め方などのアドバイスをいただいている。研究の面白さを伝えて欲しいと考えている。

〇オンリーワンハイスクールについて

・本校は、イノベーションハイスクール（医療人材の育成）に指定されている。
・「わくわくする」「最先端に触れる」事業をとおして主体性や探究心、高い志を引き出し進路実現に資するものとなっている。
・成果としては、令和３年度 14 人、令和４年度 15 人となっており、令和５年度は 16 人を目標としている。医療人材の育成は、静岡県として求められていることでもある。

〇昨年度いただいた意見に基づいた修正

・学校経営計画（イ）の知的好奇心を喚起する授業の成果目標について追加。また、広報の充実を図るために、ホームページの更新を週 3 回以上の成果目標を追加した。
・挨拶の大切さについても、全校集会等で啓発をしている。
・働き方改革については、採点支援ソフトの導入を試行しており、採点時間の削減が期待できる。

（４）意見交換等

Ｄ委員：授業が難しく、高度な勉強をしているという印象である。生徒がもう少し少ないのではないかと考えていたが、教室が寿司詰め状態であった。また登校中の静高生をみかけるが、スマホを見ながら自転車を運転している生徒

がおり、気になっている。けがの無いようにしてほしいと思う。安東小学校の見守り隊をやっているが、ほとんどが一旦停止をしていない。自分本位な自転車の運転はしないようにしてほしい。

Ｃ委員：仮装を見学したが、コロナや宗教のこと、ジェンダー、いじめについて取り上げており、社会的問題への関心の高さがわかる内容であった。実業高校とは違う、進学校型の探究活動の実践を発信していくことが大切である。現場へ行き、実際に人と話をすることが大切である。内向きになりがちなので、中小企業や商店の人と関わることで地に足の着いた探究になるのではないか。教員や保護者に静高型の探究の大切さを伝えてほしい。点数だけでなく、「なぜ働くのか」「なぜ学ぶのか」考えることで学校に活気が出てくるのではないか。

Ｅ委員：生徒の興味関心を引き出している。コロナが５類になって、社会の体制が変わったがウイルスが変化したわけではない。教室の窓の開け方に統一感がないと感じた。従来通り、換気は大切なことである。生徒は若くて体力があるが、授業をしている先生方の健康も守ってほしい。水道が改善されたが、１回に出る水量が少ない。手洗い時は、流水で 20 秒流すことで効果が高まる。

教室が狭く、カバンが通路に置かれており、中央にいる生徒の避難の障害となると思われる。また、地震が起きたらカーテンを引きガラスの飛散を防ぐ必要があるが、カーテンを束ねていると素早く開くことができない。災害対応に配慮しているというスタンスが必要であると感じた。

自転車のヘルメット着用について、静高の決まりとしてヘルメットを率先して義務化するというのはどうか。市内や中部地区においては静岡高校がリーダーシップをとっていく姿勢を発信していくことが大切である。

探究活動において、いろいろなところへ行って対話してくるのは大事であるが、将来フロントランナーとしてリーダーになる立場であるという視点をもって現場に行くことが大事である。勉強も何のために役立つのかという意識することで、生きた学習になる。

Ｆ委員：自転車のヘルメットについては、高性能イヤホンをつけたままヘルメットをかぶっていると周囲の音が聞こえなくなる。静高生は、話し合いの機会をつくれば自らルールを作れるのではないか。ヘルメットもデザインを募集したら良いものが作れるかもしれない。岩手県北上市の進学校では、市役所の新人職員とともに市の課題や魅力を考える事業を実施している。職員と高校生が一緒に夏休みに街へ出て話を聞き、自分たちに何ができるかを考えて論文作成している。進学先の大学を選ぶ理由においても、ど

んな研究をしたいか、どの先生に師事したいかなど明確にさせており、進学率が上がっている。地元に戻って事業を起こす意識にもつながっている。静岡は、北上に比較したら大きいが、参考になる取り組みではないか。

Ｇ委員：ホームページの更新はどのような内容か。
教頭　：部活動の結果や学校全体の行事について掲載している。
Ｇ委員：部活動の内容を載せると励みになるのではないか。野球部は取り上げられることが多いが、他の部活動の活躍を紹介する場がもっとあってもよい。昨年度進路後援会で話をしたが、女性の生徒から積極的に質問を受けた印象がある。進学実績からも女性が活躍していることが感じられる。
修学旅行は、台湾へ行くのでしょうか？
副校長：京都奈良だが、40 名くらいが台湾コースを選択できるようになっている。
Ｇ委員：静岡は、中学で京都奈良へ行くので、自分は高校でも京都奈良で残念だった思い出がある。
副校長：修学旅行前に探究で調べ、グループ活動につなげているので自主性を育てる行事となっている。

Ａ委員：優秀な中学校時代の成績で入学してきた中で順位がついている。得意なものを伸ばすことを意識してほしい。人間育成にも力を入れていただきたい。

Ｃ委員：ホームページに動画を作って載せたらどうか。頼んだら作ってくれそうな生徒はいるか。
教頭　：放送部、新聞部、写真部が中学生向けの案内は作成しているが、動画ではない。
Ｃ委員：学校生活を動画にすることで、静高生の良さを発揮できるのではないか。
Ｆ委員：岡山のジーンズの町で、高校生が仕事についての動画を作成し発信している。高校生はあっというまに動画をうまくつくる。ユーチューブ甲子園で、学校自慢をしようという取り組みをしているが、様々な学校が参加している。
Ｃ委員：OB にも映像関係の人材がいるので、学校にも協力してくれるのではないか。やる気のある生徒がいれば、協力してくれる人は多いのではないか
校長　：工学部もあり、動画を作ることが好きな生徒はいる。やりたい生徒はいるのではないか
Ｆ委員：山岳部や弓道部の動画もあげたら見るのではないか
Ｃ委員：下田のケーブルテレビでは、松崎高校の部活紹介をネットにあげており、人気である。
Ｅ委員：実践目標のところで、「われわれはひとに迷惑をかけない」というのが、目標として楽しい単語ではない。言葉の使い方を変えるだけで、もう少し前向きな印象になるのではないか。

卒業生のフロントランナーの話を聞き身近の話として紹介していくことで、意識を作っていったらどうか。

A委員：優秀な人材が、大学で首都圏へ行って帰ってこない。大学生には「静岡で働こう」という情報誌を家庭に届けている。高校生は学校に届けているが、大学を出て戻ってくる人材が増えると良いと思っている。

校長　：考えるヒントをいただいた。今後どう生かしていくか考えていきたい。
イノベーションハイスクールが今年３年目で終了となるので、今後、探究を絡めて予算を確保できる企画をうまく作れたらよいと考えている。
ヘルメットに関しては、今年の１年生は中学生からの継続で、着用率が高いが、２～３年生は意識付けが難しい。警察に来てもらってサイクルマナー講座を実施している。強制できるかどうかというと難しいかもしれないが、自治会（生徒会）になげかけてみるのは一つの案である。

Ｅ委員：静高生がやっているからとみんなが思ってくれれば、良いのではないか。

校長　：人に迷惑をかけないという実践目標については、ネガティブな表現とは感じているが、長い間使われているものである。「生徒の自己肯定感を高める」とよく言われるが、自己肯定感が低い子ほど人を頼れず、孤立していく。もっと人を頼っていいし、困ったら困ったと言っていい。自己肯定感が下がっている子にこの言葉は必要以上に強く響くかもしれないとも感じている。

Ｃ委員：会社で引き継がれている言葉に「一人で悩むな、周りを悩ませろ」という言葉がある。この３つ（実践目標：われわれは勉強を本分とする。われわれは人に迷惑をかけない。われわれは自主的に行動する。）が並んでいると、非常に内向きに見える。

校長　：考えるチャンスをいただき、ありがたい。どんな表現が良いか時間をかけて考えたい。

４　閉会・諸連絡

（１）議事録について

後日、内容を確認していただき、ホームページへ掲載する。

（２）今後の予定

第２回　令和５年 10 月 26 日（木）午後４時 45 分～７時 20 分（定時制公開日）
第３回　令和６年２月上旬